

## 7. 天敵温存植物として有望なスカエボラの効率的な挿し芽増殖条件

### [要約]

スカエボラを効率的に増殖するには、挿し芽時期は4月下旬～6月、挿し芽用土はバーミキュライト（S）を用いて25日間で移植する。また、挿し穂は茎のどの部分を用いても発根に差はない。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話086-955-0277

[分類] 情報

---

### [背景・ねらい]

スカエボラは土着天敵タバコカスミカメや市販天敵スワルスキーカブリダニの温存植物として有望である。一般的に挿し芽で増殖するが、他の栄養繁殖性の天敵温存植物に比べて発根が遅いため挿し芽育苗期間が長く、増殖効率が悪い。そこで、効率的な挿し芽増殖方法を確立するため、最適な挿し芽条件を明らかにする。

### [成果の内容・特徴]

1. 4月下旬から梅雨時期の6月までは発根量が多いが、7～8月の夏期高温期は発根量が少なくなる（図1）。
2. 天挿し、管挿し（3～4節、葉芽有）で発根長及び発根重に差はない（表1）。
3. バーミキュライト（S）を用いた場合、挿し芽30日後の発根長及び発根重は最も多くなる（表2）。
4. バーミキュライトを用いた場合、発根長が長くなり、根が絡まりやすくなるため、挿し芽育苗期間としては25日程度でポットに移植する。

### [成果の活用面・留意点]

1. 挿し穂は必ず腋芽（葉芽）が3～4芽付くように調製する。
2. スカエボラの増殖手順及び利用方法については「施設キュウリとトマトにおけるIPMのためのタバコカスミカメ利用技術マニュアル（2015年版）」（農研機構 中央農業総合研究センターHPに掲載）を参照されたい。
3. スカエボラの登録品種は自家増殖が禁止されているため、利用する際は品種登録の有無に十分注意する。

[具体的データ]

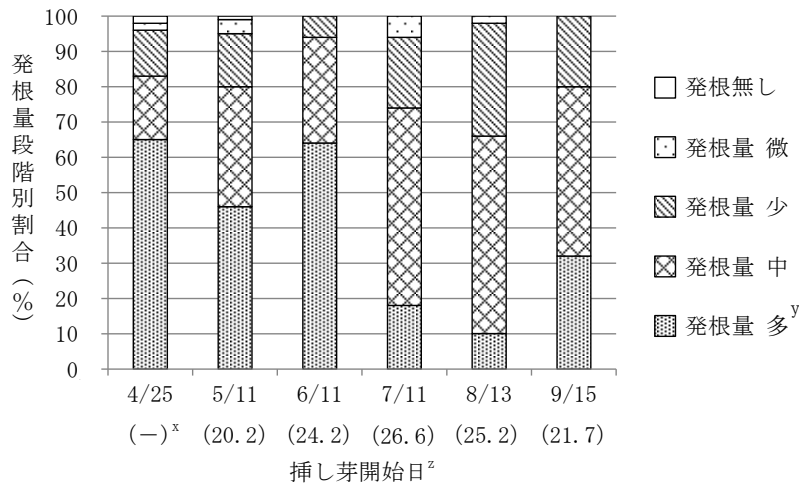


図1 挿し芽時期がスカエボラの発根量に及ぼす影響

<sup>z</sup> 挿し芽育苗期間は30日、挿し芽用土はパーライト(2型)

<sup>y</sup> 発根量を「多」「中」「少」「微」「無」の5段階で評価。

<sup>x</sup> 括弧内の数値は挿し芽育苗期間中の挿し芽床の平均気温を示す(4月は未計測)

表1 採穂部位がスカエボラの発根長及び発根重に及ぼす影響<sup>z</sup>

採穂部位 <sup>y</sup>	発根長 (cm)	発根重 (mg)
天挿し	4.5	26.2
管挿し	4.6	22.1
有意性 <sup>x</sup>	n. s.	n. s.

<sup>z</sup> 挿し芽育苗期間は5/1~6/3までの33日、挿し芽用土は宇部パーライト(2型)

<sup>y</sup> 天挿しは茎の先端部を使った挿し穂、管挿しは茎の中間部を使った挿し穂を意味する

<sup>x</sup> n. s. は有意差なし(t検定)

表2 挿し芽用土がスカエボラの発根長及び発根重に及ぼす影響

挿し芽用土 <sup>y</sup>	発根長 (cm)				発根重 (mg)			
	20日後		30日後		20日後		30日後	
	1回目 <sup>z</sup>	2回目 <sup>z</sup>	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
宇部パーライト(2型)	3.3 c	5.7 b	6.3 b	9.0 b	14.9 b	31.8 a	54.8 a	75.6 ab
パーミキュライト(S)	7.7 a	10.6 a	10.0 a	21.0 a	26.2 ab	29.3 a	67.3 a	98.2 a
鹿沼土(細粒)	5.6 b	4.6 b	9.5 a	10.7 b	31.4 a	11.2 b	55.5 a	61.7 b

<sup>z</sup> 試験は2回実施し、挿し芽育苗期間は1回目が6/17~7/17、2回目が8/30~9/29。

発根率は2回目の鹿沼土20日後でのみ93%で、その他は100%であった

<sup>y</sup> 粒径は宇部パーライト(2型)が5.0mm以下、パーミキュライト(S)が3.0~4.0mm、鹿沼土(細粒)が1.0~2.0mm

異なる英文字間に5%水準で有意差あり (Tukey法)

[その他]

研究課題名：土着天敵タバコカスミカメの持続的密度管理によるウイルス媒介虫防除技術の開発・実証

予算区分：農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業

研究期間：2012~2014年度

研究担当者：綱島健司